編 集 後 記

今回の紀要は三重大学留学生センターの第２号の紀要である。第１号の懸案であった研究論文と研究報告の違いは第２号で明確に打ち出すことになった。

紀要第２号に掲載された研究論文は、日中対照表現論（意訳（日→中）について（Ⅱ））から、日本語授業場面における日本語教師の葛藤についての検討、ト・バ・タラの基本的意味に基づく様々な言語現象の分析、終助詞「よ」の持つ「失礼さ」の度合いについての考察、とバラエティーに富んでいる。また、研究報告は日本人学生と留学生の対等な関係を模索しての交流についての報告から、日本語研修コースの全学開放をめぐる現状と課題についての実施報告、全学中級Ⅰコース文法必修クラスについての研究報告、全学中級聴解クラスにおけるディクテーションについての実践報告、とこれも多岐にわたっている。また、本第２号では書評（拙稿）もつけ加わった。

思うに、新しいものは昔から既成のものによって軽侮され叩かれてきた。しかし、いずれはその既成のものも色褪せ、新しいものに席を譲ることになる。時代は変わるのである。現在、日本の、昔との大きな相違は留学生等外国からやって来た（様々な背景を持つ）人たちの数が非常に増えたことである。当然、その関連の研究論文、研究報告も多岐にわたることになる。翻って、私は最近、日本人の外国理解について次のように考えている。「大多数の日本人は過去において自分の見たい（「見る必要のある」と同義のことも多かった）外国の現実しか見ようとしなかったし、今もそうなのではないか。」と。もうそろそろ外国を固定的にランク付けして見る時代は終わりにしたい。そのために、まず己をよく知り、他者（できるだけ多くの）をよく知ることから始めたい。本紀要第２号に掲載された研究論文、研究報告等がその一助となれば幸いである。

いつものことですが、最後に、御協力いただいた関係各位の皆様方に心より御礼申し上げます。

（藤　田　昌　志）

三重大学留学生センター紀要　第２号

2000年３月20日　印刷
2000年３月25日　発行

編集委員：藤　田　昌　志（委員長）
加賀美　常美代
早矢仕　彩　子

発行者　三重大学留学生センター
〒514-8507　三重県津市上浜町1515

印刷所　伊藤印刷株式会社
〒514-0027　三重県津市大門32-13
TEL 059(226)2545　FAX 059(223)2862